

# 「かおり風景100選」の特徴分析にみる「嗅覚的観光資源」の可能性

*A study of 'olfactory tourist resources' through the feature analyses of the 100 best smellscape in Japan*

橋本俊哉[立教大学観光学部・教授]

HASHIMOTO, Toshiya

**Abstract:** This paper aims to examine the possibility of 'the olfactory tourist resources' by analyzing the place of 'source of smell' and seasonality of smell. According to the purpose, every case of the 100 best smellscape in Japan, selected by the Ministry of Environment are analyzed, from a standpoint of the generating place of smell and the best season. After that, the possibility of the sense of smell in tourism is discussed from the following view points: pattern of distance between person and 'source of smell', the improvement of tourist destinations from the viewpoint of smellscape, and the importance of paying attention to 'source of smell' on a daily basis.

**Keywords:** かおり風景100選(the 100 best smellscape in Japan), 「香源」('source of smell'), 「嗅覚的観光資源」('olfactory tourist resource'), スメルスケープ(smellscape)

## I はじめに

## II 「かおり風景100選」の概要

1. 「かおり風景100選」選定の経緯
2. 選定先の概要

## III 「かおり風景100選」の特徴分析

1. 選定先にみる香源
2. 香源の季節性

## IV 考察

1. 行動主体と香源との距離関係
2. 「かおり風景」からみた観光地のレベルアップ

## 3. 日頃から香源を意識することの重要性

## V おわりに

## I—はじめに

嗅覚やにおいては、それ自体の曖昧さや研究方法の困難さ等のために、長い間、香りの歴史や文化、香りの療法などについての研究が主体であった。日本で嗅覚に着目して観光地づくりに示唆を与える研究は、ポーティウス(1985=1992)によって

「スメルスケープ」の概念が提起されて以降のことで、観光研究においては、嗅覚に着目した研究は、これまでほとんどみられない<sup>2</sup>。

筆者はこれまで、印象深い観光体験を考える際の視点として、五感の重要性に着目した理論研究に取り組んできた<sup>3</sup>。その中で、観光における聴覚の意味や役割について考察する際に、「聴覚的観光資源」(橋本, 2004)の考え方に言及した。本稿は、今後、観光における嗅覚の意味や役割、スメルスケープの計画等について検討する際の参考資料とすべく、嗅覚を刺激する良いにおいの発生源(以下、「香源」)の分類を試み、その特徴を明らかにすることを通して、「嗅覚的観光資源」の可能性について検討せんとするものである。

## II—「かおり風景100選」の概要

### 1. 「かおり風景100選」選定の経緯

分析対象としたデータは、2001年10月に環境省によって選定された「かおり風景100選」(以下、「100選」)である。

これは、「身近にあるよいかおりを再発見し、かおりに気づくことを通して身の回りにある様々なにおいを意識し、不快なおいの改善に積極的に取り組む地域の活動」(環境省水・大気環境局)を促進すべく、「かおり風景」を広く募集し、とくに優れたもの100地点を認定した事業である。募集期間は2001年5月25日から8月末までの3か月間で、応募数は600件(地方公共団体512件、個人等88件)であった。

応募された「かおり風景」については、岩崎好陽氏(東京都環境科学研究所応用研究部長、当時)を座長とする8名の選定委員会によって、かおりの源、特に地域の人々との関わり、保全活動の状況等を重視して選定審査が行われた。

選定ポイントは表1の通りである。「豊かなかお

表1 「かおり風景100選」選定のポイント(抄)

- ①多くの一般住民が気軽に楽しめる条件にあること。地元住民のみならず、訪問者にとっても楽しめるかおり風景であること(特定の人のみの利用に限定されていないこと)。
- ②かおり風景が地域における自然的、歴史・文化的、生活または生産活動の環境としての位置付けが認知され、今後も継承されること
- ③かおり風景に接することによって、地民や訪問者の憩いや安らぎを与え続けることができること。
- ④かおり風景の創出や維持・保全に対し、地域ぐるみで取り組む熱意が見られること。
- ⑤かおり風景の保全が地域環境の改善または保全モデルとして寄与すること。
- ⑥かおり風景が人の持つ五感を呼び戻す環境づくりに貢献すること。
- ⑦かおり風景としての「品格」を有し、保存する価値の高い地域であること。

資料：環境省水・大気環境局

りとその源となる自然や文化・生活を一体として将来に残し、伝えていくために、そうした環境の継承や保全・創出の仕組みが認められ(表1の選定ポイント②、④)、地域環境の改善・保全のモデルとなるような視点(⑤)から、全国の特徴ある「かおり風景」が、バランスよく選定されている。

また、「かおり風景」は、住民のみならず、訪問者にとっても楽しめる(特定の利用に限定されない)ことも選定ポイントとされており(①)、実際に100選を訪ねるガイドブックがいくつも出版されている<sup>4</sup>ことから、嗅覚面からみた観光資源を考えるうえでも有効と考えられる。

選定後は、2002年以降、100選の選定市町村において「かおり風景全国フォーラム」が開催され、2006年より「みどり香るまちづくり企画コンテスト」へと引き継がれてきた。しかしながら、100選の選定地の取り組みに対して、その後体系的なフォローアップがなされてきたとは言えず、選定の成果が、地域環境の維持・保全に十分に活用されてきたとは言えない。

## 2. 選定先の概要

表2, 表3は, 100選の選定先について, 東日本, 西日本に分けて概要を整理したものである. 個々の選定先の名称からも理解できる通り, 四季折々

の自然から, 長年にわたって営まれてきた生産現場, 生活文化に至るまで, 多様な「かおり風景」が選定されている. それらが発生する場の分類を試み「場所」とし, かおりの発生源については, 環境省が公表している「かおりの源」を「香源」として,

表2 「かおり風景100選」選定地の概要(東日本)

ID	地域	都道府県	市町村(選定時)	名称	季節	場所	香源	
(1)	北海道	北海道	富良野市, 上富良野町, 中富良野町, 南富良野町	ふらののラベンダー	5~9月	農地	ラベンダー	
(2)		北海道	北見市	北見のハッカとハーブ	6~8月	公園・植物園	ハーブ(ハッカ, ラベンダー)	
(3)		北海道	登別市	登別地獄谷の湯けむり	通年	泉源	硫黄	
(4)		北海道	釧路市	釧路の海霧	6~8月	海洋・海岸	海霧	
(5)	東北	青森	尾上町	尾上サワラの生け垣	春~夏	住宅街	生け垣を刈り込んだ時のかおり	
(6)		青森	南部町	南部町長谷ぼたん園	5月下旬~6月上旬	公園・植物園	ぼたん	
(7)		岩手	宮古市	浄土ヶ浜の潮のかおり	通年	海洋・海岸	潮	
(8)		岩手	盛岡市	盛岡の南部煎べい	通年	伝統産業	南部煎べい	
(9)		宮城	一迫町	南くりこま一迫のゆり	6月中旬~7月	公園・植物園	ゆり	
(10)		宮城	牡鹿町	金華山の原生林と鹿	通年	森林	ブナ, モミ, アカマツ, 草地	
(11)		秋田	能代市	風の松原	春~秋	森林	松葉, 土, 潮	
(12)		秋田	小坂町	小坂町明治百年通りのアカシア	6月下旬~7月初旬	街路・街道	アカシア	
(13)		秋田	大潟村	大潟菜の花ロード	4月下旬~5月	街路・街道	菜の花	
(14)		山形	羽黒町	羽黒山南谷の蘚苔と杉並木	通年	森林	杉, 蘚苔, 残雪, 風	
(15)		山形	大石田町	大石田町そばの里	通年(特に秋)	飲食業	そば	
(16)		山形	村山市	東沢バラ公園	5月中旬~9月	公園・植物園	バラ	
(17)		福島	須賀川市	須賀川牡丹園の牡丹焚火	11月第3土曜日	公園・植物園	赤松, 牡丹, 枯死した牡丹古木の焚火	
(18)		福島	郡山市	郡山の高柴デコ屋敷	通年	伝統産業	にかわ	
(19)		関東	茨城	水戸市	偕楽園の梅林	12月下旬~3月	公園・植物園	梅
(20)			栃木	今市市	今市竜蔵寺の藤と線香	5月(六尺藤)	社寺(巨木)	藤, 線香, 湧き水
(21)	栃木		日光市	日光霧降高原のニッコウキスゲ	6月下旬~8月中旬	高原	ニッコウキスゲ, 草, 花	
(22)	栃木		那須町	那須八幡のツツジ	5月	高原	ヤマツツジ, レンゲツツジ	
(23)	群馬		草津町	草津温泉「湯畑」の湯けむり	通年	泉源	硫黄	
(24)	埼玉		川越市	川越の菓子屋横丁	通年	小売業	ハッカ飴, 駄菓子, だんご	
(25)	埼玉		草加市	草加せんべい醤油のかおり	通年	伝統産業	せんべい	
(26)	千葉		天津小湊町	天津小湊町誕生寺の線香と磯風	通年	社寺	線香, 磯	
(27)	千葉		山田町	山田町府馬の大クス	通年	社寺(巨木)	タブノキ	
(28)	東京		千代田区	神田古書店街	通年	小売業	古書	
(29)	東京		江東区	江東区新木場の貯木場	通年	農林漁業	製材の木	
(30)	神奈川		箱根町	箱根大涌谷硫黄のかおり	通年	泉源	硫黄	
(31)	神奈川		藤沢市	鶴沼, 金木犀の住宅街	秋	住宅街	金木犀	
(32)	北陸・甲信越	新潟	豊栄市	福島島の草いきれ	春~秋	湖沼(潟湖)	草いきれ	
(33)		富山	砺波市	砺波平野のチューリップ	春	農地	チューリップ	
(34)		富山	宇奈月町	黒部峡谷の原生林	春~秋	森林	樹木, 草, 花	
(35)		富山	富山市	富山の和漢菜のかおり	通年	小売業	和漢菜	
(36)		石川	輪島市	輪島の朝市	通年	小売業	魚介類	
(37)		福井	勝山市	白山神社境内菩提林の杉と蘚苔	春~秋	社寺林	杉, 蘚苔	
(38)		山梨	勝沼町, 一宮町	勝沼・一宮のぶどう畑とワイン	通年	農地	ぶどう, ワイン	
(39)		長野	上松町	赤沢自然休養林の木曾ヒノキ	春~秋	森林	ヒノキ	
(40)		長野	松本市	松本大名町通りのシナノキ	6月(シナノキ)	街路・街道	シナノキの花, バラ, 水辺	
(41)		長野	飯田市	飯田りんご並木	春, 秋	街路・街道	りんごの花と実	
(42)	長野	諏訪市, 下諏訪町	霧ヶ峰の高原と風	春~秋	高原	草, 花(レンゲツツジ・ニッコウキスゲなど)		
(43)	中部	岐阜	加子母村	加子母村の繪とササユリ	通年	農林漁業	ヒノキ材, ササユリの花	
(44)		岐阜	高山市	飛騨高山の朝市と古い町並	通年	小売業	野菜, 花	
(45)		岐阜	宮川村	種蔵棚田の雨上がりの石積	春~秋(特に夏)	農地	雨が降った後の棚田の石積	
(46)		静岡	豊田町	豊田香りの公園	通年	公園・植物園	金木犀, ハーブ, 藤, 樹木	
(47)		静岡	牧之原地区, 川根地区	牧之原・川根路のお茶	春~初夏	農林漁業	茶園, 製茶	
(48)		静岡	松崎町	松崎町桜葉の塩漬け	6月~12月	農林漁業	桜葉の塩漬け	
(49)		静岡	浜松市	浜松のうなぎ	通年	飲食業	うなぎの蒲焼き	
(50)		愛知	半田市	半田の酢と, 蔵の町	通年	醸造業	酢, 酒	
(51)		三重	鳥羽市	答志島和貝浦漁港の塩ワカメづくり	2月~4月	農林漁業	海藻(ワカメ)	
(52)		三重	宮川村	大台ヶ原のブナの原生林	春~秋	森林	深い森, 清流	
(53)		三重	伊勢市	伊勢神宮参道千年の杜	通年	社寺林	神宮林, 伊勢うどん, お茶等	

環境省水・大気環境局資料, 「場所」は筆者による分類.

それぞれ追記している。

地域単位でみると、北海道、東北と北陸・甲信越地域で自然の香源が多く選定されている(29件中24件)こともあり、「通年」と特定の季節に限定されている件数を東日本と西日本とで比較すると、

東日本(表2)は通年43.4%、季節限定56.6%(53件中23:30)、西日本(表3)は55.3%:44.7%(47件中26:21)と、ほぼ逆の比率となっている。

表3 「かおり風景100選」選定地の概要(西日本)

ID	地域	都道府県	市町村(選定時)	名称	季節	場所	香源	
(54)	関西	滋賀	大津市	比叡山延暦寺の杉と香	通年	社寺林	杉,お香	
(55)		滋賀	信楽町	古窯信楽の登り窯	通年	伝統産業	窯場(登り窯)	
(56)		京都	京都市	祇園界隈のおしろいとびん付け油のかおり	通年	サービス業	化粧・香料・びん付け油	
(57)		京都	宇治市	宇治平等院表参道茶のかおり	通年	小売業	茶	
(58)		京都	京都市	伏見の酒蔵	冬	醸造業	酒造,新酒	
(59)		京都	京都市	東西両本願寺仏具店界隈	通年	小売業	お香	
(60)		大阪	大阪市	法善寺の線香	通年	社寺	線香	
(61)		大阪	大阪市	鶴橋駅周辺のにぎわい	通年	小売業	商店街(焼肉・キムチ等)	
(62)		大阪	東大阪市	枚岡神社の社叢	1月～3月(梅)	社寺林	梅,楠,杉,草花	
(63)		兵庫	津名郡一宮町	一宮町の線香づくり	通年	伝統産業	線香	
(64)		兵庫	神戸市,西宮市	灘五郷の酒づくり	秋～冬	醸造業	灘の酒	
(65)		兵庫	山崎町	山崎大蔵神社の千年藤	4月下旬～5月上旬	社寺(巨木)	藤	
(66)		奈良	奈良市	ならの墨づくり	通年	祭・催事	墨	
(67)		奈良	奈良市	なら燈花会のろうそく	8月	社寺林	ろうそくの灯り	
(68)		和歌山	高野町	高野山奥之院の杉と線香	通年	農地	杉,線香	
(69)		和歌山	桃山町	桃源郷一目十万本の桃の花	春	公園・植物園	桃の花	
(70)		中国・四国	鳥取	倉吉市	酒と醤油のかおる倉吉白壁土蔵群	通年	醸造業	醤油,酒の醸造
(71)			鳥取	浜田市	石見曇ヶ浦磯のかおり	春～秋	海洋・海岸	磯
(72)			岡山	岡山市,倉敷市,山陽町	吉備丘陵の白桃	春	農地	桃の花
(73)	岡山		新庄村	毛無山ブナとカタクリの花	5月～6月初旬	森林	ブナ,カタクリ	
(74)	広島		宮島町	厳島神社潮のかおり	通年	海洋・海岸	潮	
(75)	広島		瀬戸田町	シトラスパーク瀬戸田の柑橘類	通年	公園・植物園	柑橘類	
(76)	山口		萩市	萩城下町夏みかんの花	春	住宅街	夏みかんの花	
(77)	徳島		藍住町	吉野川流域の藍染めのかおり	通年	伝統産業	藍染め	
(78)	徳島		上勝町	上勝町の阿波番茶	夏	農林漁業	阿波番茶	
(79)	香川		白鳥町	白鳥神社のクスノキ	通年	社寺(巨木)	クスノキ	
(80)	愛媛		内子町	内子町の町並と和ろうそく	通年	伝統産業	和ろうそく,伝統的な住まい	
(81)	愛媛		西条市	西条王至森寺の金木犀	秋	社寺(巨木)	金木犀	
(82)	愛媛		愛媛県西宇和地区	愛媛西宇和の温州みかん	4月～5月	農地	みかんの花	
(83)	高知		四万十川流域	四万十川の沈下橋をわたる風	通年	河川	清流をわたる風,鮎	
(84)	高知		梶原町	梶原神在居の千枚田	春～秋	農地	千枚田(土,草,花,稲わら)	
(85)	九州・沖縄		福岡	太宰府市	太宰府天満宮の梅林とクスノキの森	1月～4月上旬(梅), 4月末～5月(クスノキ)	社寺林	梅,クスノキ
(86)		福岡	北九州市	合馬竹林公園の竹と風	3月～4月	公園・植物園	竹林,たけのこ	
(87)		福岡	柳川市	柳川川下りとうなぎの蒸籠蒸し	通年	飲食業	うなぎの蒸籠蒸し	
(88)		佐賀	唐津市,浜玉町	虹の松原潮のかおり	通年	海洋・海岸	潮	
(89)		佐賀	伊万里市	伊万里焼土と炎のかおり	通年	伝統産業	窯場(煙と土と炎)	
(90)		長崎	野母崎町	野母崎水仙の里公園と潮	12月～1月(水仙)	公園・植物園	水仙,潮	
(91)		熊本	水俣市	大学山の照葉樹林	夏	森林	照葉樹林,下草刈り	
(92)		熊本	河浦町	河浦崎津天主堂と海	通年	海洋・海岸	潮	
(93)		大分	別府市	別府八湯の湯けむり	通年	泉源	温泉	
(94)		大分	野津原町	大分野津原香りの森	通年	公園・植物園	ラベンダーなどの花,樹木	
(95)		大分	臼杵市,竹田市	臼杵・竹田の城下町のカボス	夏～秋	住宅街	カボス	
(96)		大分	久住町,九重町	くじゅう四季の草原,野焼きのかおり	春～秋	高原	ミヤマキリシマをはじめとする四季の花々,草原	
(97)		宮崎	延岡市	五ヶ瀬川の鮎焼き	秋	飲食業	鮎焼き	
(98)		鹿児島	上屋久町	屋久島の照葉樹林と鮎節	通年	森林	照葉樹林,潮,鮎節	
(99)		鹿児島	指宿市	指宿知礼ヶ島の潮風	通年	海洋・海岸	潮,草花,樹木	
(100)		沖縄	竹富町	竹富島の海と花のかおり	通年	海洋・海岸	潮,花	

環境省水・大気環境局資料,「場所」は筆者による分類。

### III——「かおり風景100選」の特徴分析

#### 1. 選定先にみる香源

100選の選定先のうち、香源は自然資源65件、人文資源35件に大別される<sup>5</sup>。表4、表5は、香源を自然資源、人文資源に分けて、かおりの発生する場所ごとに整理したものである。

自然資源(表4)については、自然地域に立地する香源(「高原・森林」, 「河川・湖沼・海岸」, 「泉源」)と、居住空間(ならびにその周辺地域(「社寺」, 「農地」, 「公園・植物園」, 「住宅街・道路」)の香源に大別される。

自然地域では「森林」や「海岸(とくに潮のかおり)」が数多く選定されている。居住空間周辺地域は、「社寺」ではスギや神宮林などの「社寺林」と藤やクスノキなどの「社寺の巨木」が、「農地」ではラベンダーやチューリップなど地域を代表する花卉や桃やみかんなど地域の名産品の花がみられる。「公園・植物園」では花卉や柑橘類、竹林、「住宅街・道路」では地域に根づいた季節の花のかおり

表4 場所別にみた「かおり風景100選」にみる香源(自然資源)

場所	選定数	「香源」
高原・森林		
高原	4	ニッコウキスゲ(21), ヤマツツジ(22), 草, 花(42), ミヤマキリシマ(96)
森林	9	ブナ(10, 73), 原生林(34, 52), 砂防林(11), スギ(14), ヒノキ(39), 照葉樹林(91, 98)
河川・湖沼・海岸		
河川	1	清流をわたる風(83)
湖沼	1	草いきれ(32)
海岸	8	海霧(4), 潮(7, 74, 88, 92, 99, 100), 磯(71)
泉源	4	硫黄(3, 23, 30), 温泉(93)
社寺		
社寺林	6	スギ(37, 54, 68), 神宮林(53), 梅(62, 85)
社寺の巨木	5	藤(20, 65), タブノキ(27), クスノキ(79), 金木犀(81)
農地	8	ラベンダー(1), チューリップ(33), ぶどう(38), 雨が降った後の棚田の石積(45), 桃の花(69, 72), みかんの花(82), 千枚田(84)
公園・植物園	11	ハーブ(ハッカ, ラベンダー)(2), 牡丹(6), ゆり(9), パラ(16), 赤松(17), 梅(19), 金木犀(46), 柑橘類(75), 竹林(86), 水仙(90), ラベンダー(94)
住宅街・道路		
住宅街	4	生け垣のサワラを刈り込んだ時のかおり(5), 金木犀(31), 夏みかんの花(76), カボス(95)
街路・街道	4	アカシア(12), 菜の花(13), シナノキの花(40), りんごの花と実(41)

環境省水・大気環境局資料をもとに筆者作成。

注：香源の後の数字は、表2、表3のIDに対応。表2、表3で複数の香源が挙げられている場合は、最初に挙げられているもののみを記載。

などが選定されている。

人文資源については、香源の発生場所は「生産現場」と「生活文化」の空間に大別される(表5)。ろうそくと線香については、それぞれ「生産現場」と「生活文化」の双方で選定されている。

#### 2. 香源の季節性

表6、表7は、それぞれの香源が、どの季節に「かおり風景」として体験しうるかについて、自然資源、人文資源に分けて整理したものである。

自然資源(表6)については、「高原」は花の季節、「森林」も春から秋にかけてが多い。「海洋・海岸」は夏に発生する「海霧」を除くとほぼ通年である。「社寺」では、梅や藤、金木犀など花が咲く時期以外はほぼ通年、「農地」ではチューリップや桃、みかんの花が咲く春が多い。「公園・植物園」はそれぞれの花の季節、「住宅街・道路」も花の季節が多くなっている。

表7に示した人文資源では、「農業、漁業」「醸造業」と「祭・催事」を除き、ほぼ通年となっている。

表5 場所別にみた「かおり風景100選」にみる香源(人文資源)

場所	選定数	「香源」
生産現場		
農林漁業	6	製茶(47), 桜葉の塩漬(48), 阿波番茶(78), 製材の木(29), ヒノキ材(43), 海草(ワカメ)(51)
醸造業	4	酢・酒(50), 酒(58, 64), 酒・醤油(70)
伝統産業	9	南部煎べい(8), にかわ(18), せんべい(25), 窯場(55, 89), 線香(63), 墨(66), 藍染め(77), 和ろうそく(80)
生活文化		
小売業	8	ハッカ館(24), 古書(28), 和漢薬(35), 魚介類(36), 野菜, 花(44), 茶(57), お香(59), 商店街(焼肉, キムチ等)(61)
サービス業	1	化粧, 香料, びん付け油(56)
飲食業	4	そば(15), うなぎ蒲焼き(49), うなぎの蒸籠蒸し(87), 鮎焼き(97)
祭・催事	1	ろうそくの灯り(67)
社寺	2	線香(26, 60)

環境省水・大気環境局資料をもとに筆者作成。

注：香源の後の数字は、表2、表3のIDに対応。表2、表3で複数の香源が挙げられている場合は、最初に挙げられているもののみを記載。

表6 香源の季節性(自然資源)

場所	春	夏	秋	冬	香源
高原・森林	高原	●			ヤマツツジ(22)
		●	●		ニッコウキスゲ(21)
		●	●	●	草、花(42)、ミヤマキリシマをはじめとする四季の花々(96)
	森林	●	●		照葉樹林の森、下草刈り(91)
		●	●	●	ブナ(73)
		●	●	●	松葉(11)、原生林(34, 52)、ヒノキ(39)
河川・湖沼・海岸	河川	●	●	●	清流をわたる風(83)
		●	●	●	草いきれ(32)
		●	●		海霧(4)
	海洋・海岸	●	●	●	磯(71)
		●	●	●	瀬(7, 74, 88, 92, 99, 100)
		●	●	●	硫黄(3, 23, 30, 93)
社寺	社寺林	●		●	梅(62, 85)
		●	●	●	スギ(37)
		●	●	●	神宮林(53)、スギ(54, 68)
	社寺の巨木	●			藤(20, 65)
		●	●	●	金木犀(81)
		●	●	●	タブノキ(27)、クスノキ(79)
農地	●			チューリップ(33)、桃の花(69, 72)、みかんの花(82)	
	●	●	●	ぶどう(38)	
	●	●	●	ラベンダー(1)、雨が降った後の棚田の石積(45)、千枚田(84)	
公園・植物園	●			竹林(86)	
	●	●		ぼたん(6)	
	●	●		ハーブ(ハッカ、ラベンダー)(2)、ゆり(9)	
			●	赤松(17)	
			●	水仙(90)	
	●	●	●	梅(19)	
●	●	●	バラ(16)		
●	●	●	金木犀、ハーブ、藤、樹木(46)、柑橘類(75)、ラベンダーなどの花、樹木(94)		
住宅街・道路	住宅街	●			夏みかんの花(76)
		●	●		生け垣を刈り込んだ時のかおり(5)
		●	●		カボス(95)
	街路・街道			●	金木犀(31)
		●			菜の花(13)
		●	●		アカシア(12)、シナノキの花(40)
●		●	りんごの花と実(41)		

環境省水・大気環境局資料をもとに筆者作成。

注：香源の後の数字は、表2、表3のIDに対応。表2、表3で複数の香源が挙げられている場合は、最初に挙げられているもののみを記載。

表7 香源の季節性(人文資源)

場所	春	夏	秋	冬	香源	
生産現場	農林漁業	●	●			茶園、製茶工場(47)
			●			阿波番茶(78)
			●	●	●	桜葉の塩漬(48)
		●			●	海草(ワカメ)(51)
		●	●	●	●	製材の木(29)、ヒノキ材(43)
	醸造業				●	酒(58)
				●	●	酒(64)
		●	●	●	●	酢、酒(50)、醤油、酒の醸造(70)
	伝統産業	●	●	●	●	南部煎べい(8)、にかわ(18)、せんべい(25)、窯場(55, 89)、線香(63)、墨(66)、藍染め(77)、和ろうそく(80)
	生活文化	小売業	●	●	●	●
サービス業		●	●	●	●	化粧、香料、びん付け油(56)
飲食業		●	●	●	●	鮎焼き(97)
祭・催事		●	●			そば(15)、うなぎの蒲焼き(49)、うなぎの蒸籠蒸し(87)
社寺		●	●			ろうそくの灯り(67)
		●	●	●	●	線香(26, 60)

環境省水・大気環境局資料をもとに筆者作成。

注：香源の後の数字は、表2、表3のIDに対応。表2、表3で複数の香源が挙げられている場合は、最初に挙げられているもののみを記載。

## IV——考察

100選の特徴分析を通して得られた示唆について、3点指摘しておきたい。

### 1. 行動主体と香源との距離関係

本稿でとりあげてきたすべての香源が「嗅覚的観光資源」となりうるとは限らないものの、「生け垣のサワラを刈り込んだ時のかおり(表2:5)」や「雨が降った後の棚田の石積(同:45)」などのように、四季の営みにみられる香源さえも重要な「かおり風景」として位置づける精神性は、四季のかおりに季節を感じる日本文化の特徴と言える。

ここで、「かおり風景」の多様性を理解する際に、行動主体と香源との距離から考えてみたい。選定された香源には、社寺や祭・催事の場合の「線香(表2:26,表3:60)」「ろうそく(表3:67)」や料理などの「行動主体が香源に接近してはじめて感じられるかおり」から、「和漢葉(表2:35)」や「茶(表3:57)」など特定の商品を扱う小売業が集積することによる「特定区域内に漂うかおり」、さらには「清流をわたる風(表3:83)」や「潮(表2:7,表3:74他)」のように「遠方からの、空間を包み込むかおり」など、行動主体をとりまくかおりは重層的に存在する。においという目に見えない嗅覚的観光資源の特性を理解するうえで、樹木の見え方による距離分類<sup>6</sup>に倣い、「近香源」「中香源」「遠香源」などと分類してそれぞれの特徴を比較分析することは、スメルスケープの特徴を把握するうえで有効と考えられる。

### 2. 「かおり風景」からみた観光地のレベルアップ

「かおり風景」からみると、季節性に富んだ自然資源と、年間通しての人文資源が多いことは理解しやすいが、日本には、表6にみられるような「通年で香源となる自然資源」や、例えば醸造業や

祭・催事に限っても、「季節性に富んだ多種多様な人文資源」が日本全国に存在している。100選に選定された香源を参考にした水平展開により、日本各地において、多彩な「嗅覚的観光資源」が見出されよう。

さらに日本は、歌に詠まれたり、その地にゆかりのある歴史上の人物が好んだなどの「記憶のかおり・イメージのかおり」にも事欠かない。それらを含めて「嗅覚的観光資源」の視点を観光地づくりに組み入れることで、その地域ならではの個性をさらに引き出し、季節の魅力づけに奥行きを与えることができるだろう。

生活のあらゆる面でデジタル化が加速する世の中であるからこそ、においに対するわが国の繊細な精神文化的所産を受け継ぎ、その土地ならではの「かおり風景」を体感できるような観光地空間の整備が求められる。

### 3. 日頃から香源を意識することの重要性

音風景と同様に、「かおり風景」もその場の自然、歴史・文化、生活・生産活動を含めた環境全体が保全されているからこそ、維持・継承されるものである。「嗅力」は意識することで鍛えられるので、多彩な香源が存在すること、季節の匂のにおいに包まれて生活していることを、私たち自身が、日頃から意識して生活することが重要である。

地域住民が香源を大切にすることは、地域の自然や生業の場を維持し、個性ある生活文化を育む活動の推進力となる。それは、住民が観光者になった場合にも、においを意識した印象深い観光体験につながるだろうし、四季を感じさせる自然資源、人文資源のかおり豊かな地域であれば、観光者にとっても、季節ごとの魅力や個性にあふれた記憶に残りやすい観光地として、繰り返し訪れてみたくなるであろう。

## V——おわりに

新型コロナウイルスの感染の流行によって、私たちは、娯楽や芸術、そして観光が、精神的豊かさや活力の源泉であることを改めて認識することとなった。とくに、五感を駆使しての体験である観光は視覚以外の感覚を目覚めさせ、五感を再構築し、感性を磨く機会ともなる重要な役割を有している。

記憶の引き出しを多くもつことは人生を豊かにする。記憶に重要な役割を果たす嗅覚は、私たちのクオリティ・オブ・ライフを支える欠かせない感覚であり、「豊かな嗅覚体験の場」としても魅力的な観光地が増えてゆくことを期待したい。

### 【付記】

本研究はJSPS科研費：20H04443(B)「観光計画概念としてのスメルスケープに関する基礎的研究」によるものである。

### 注

- 1 においのよし悪しにかかわらず、すべてのにおいの総称としては、一般的に「におい」が用いられており、「匂い」や「香り」、「かおり」は一般に快い刺激、良いにおいを指す(川崎, 2005)。本稿では、「におい」とともに、分析対象データのにおいに関しては、その名称に沿って基本的に「かおり」を用いている。
- 2 早期に五感に着目した観光計画の事例として興味深いものとして、神奈川県(1988)、神奈川県(1991)等が挙げられる。Dann・Jacobsen(2003)は旅行記の記述をもとにスメルスケープの可能性を検討している。
- 3 橋本(2004)、橋本(2021)等。
- 4 環境省「かおり風景100選選定委員会」(2002a)、環境省「かおり風景100選選定委員会」(2002b)、主婦の友社編(2010)等。
- 5 複数の香源が挙げられている場合は、最初に挙げられているもののみを対象として数えている。
- 6 篠原修は、樹木の見え方による距離分類として、近景域(単木域)、中景域(テクスチャ域)、遠景域(地形域)という距離分類を提起した(篠原, 1980)。それぞれ人間でいえば、「表情の識別限界」「活動の識別限界」「存在の認知限界」に相当する。

### 文献

- ✧Dann,G.M.S., Jacobsen, J.K.T. 2003 Tourism Smellscapes. Tourism Geographies, 5(1), 3-25.
- ✧橋本俊哉 2004 観光と「聴覚」-その役割と活用に関する考察 立教大学観光学部紀要, 6, 13-20.
- ✧橋本俊哉 2021 観光における「嗅覚体験」に関する基礎的研究 立教大学観光学部紀要, 23, 2-10.
- ✧神奈川県企画部 1988 やまなみ五湖ネットワーク構想——やまなみ文化の創造をめざして
- ✧神奈川県企画部 1991 五感ネットワーク資源整備基本調査報告書(五感資源整備指針)
- ✧川崎道昭 2005 においと香り 谷田貝光克(編) 香りの百科事典 丸善 pp.594-595.
- ✧環境省「かおり風景100選選定委員会」事務局監修 2002a かおり風景100選 フレグランスジャーナル社
- ✧環境省「かおり風景100選選定委員会」事務局監修 2002b 訪ねてみたい日本・かおり風景100選 NHK出版
- ✧ポーティウス, J.D. 1992 スメルスケープ 米田巖・潟山健一(訳編) 心のなかの風景 古今書院, pp.111-151.(Porteous, J.D. 1985 Smellscape. Progress in Human Geography
- ✧篠原修 1980 景観のデザインに関する基礎的研究 東京大学学位論文
- ✧主婦の友社編 2010 かおり風景100選——見直したい日本の「美」 主婦の友社

